

2024年度 シラバス（授業細目表）

科目名	園芸文化論		履修区分	必修	選択
受講対象	1年生	授業形態	講義	実習	演習 見学
開講時期	1年次前期	時間数	30	単位数	1
授業概要	園芸史を様々な観点から提示する。	到達目標	園芸ビジネスの展開に役立つ知識を広げる。		
担当教員	伊達 啓子				
実務経験と授業との関わり	イギリスのフラスクールでフラワーデザインやヨーロッパの園芸文化について習得し、フラワー関連の雑誌では園芸文化についての連載を持つなど、非常にこの分野の造詣が深いことから、幅広い知見を活かした指導ができる。				
テキスト・教材	自作プリント				
成績評価方法	授業の途中回の中間試験と前期定期試験期間中に実施する筆記試験で評価する。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ試験の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	古代の園芸文化	園芸の定義、古代西アジア、古代エジプト 古代ギリシャ、古代ローマ 古代ケルト	
2	中世の園芸文化	イスラム園芸とヨーロッパ中世社会 キリスト教の行事と花	
3	近世ヨーロッパの園芸文化	16世紀、17世紀 イタリア、イギリス、オランダ 18世紀 フランス、イギリス	
4	近世ヨーロッパの園芸文化	19世紀 イギリス 20世紀	
5	中間試験 日本人の園芸文化Ⅰ	筆記試験（45分） 古代から中世の栽培・供花・庭園 花と農耕儀礼、年中行事	
6	日本人の園芸文化Ⅱ	江戸の園芸 江戸の野菜	
7	日本人の園芸文化Ⅱ 野菜の歴史と原産地	江戸の野菜 授業のまとめ	
8	定期試験	筆記試験	定期試験期間中に行う
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連 フラワーデザイン基礎		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2024年度 シラバス（授業細目表）

科目名	野菜生産各論 I		履修区分	必修	選択
受講対象	野菜生産コース 1年生	授業形態	講義	実習	演習 見学
開講時期	1年次前・後期	時間数	60	単位数	2
授業概要	栽培技術の基礎及び主要な葉菜類、果菜類の栽培技術を習得する。	到達目標	栽培技術の基礎及び葉菜類、果菜類の肥培管理技術が習得できる。		
担当教員	加藤 修一				
実務経験と授業との関わり	農業改良普及員34年の実務経験があり、多種の野菜について多様な栽培技術を習得しており、野菜生産の授業に活かせる。				
テキスト・教材	野菜園芸学の基礎（農山漁村文化協会）				
成績評価方法	最終回に主要な野菜の栽培技術の基礎について習得度の試験を行う。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ試験の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	栽培技術の基本	作型・育苗	
2	栽培技術の基本	土壌管理と施肥	
3	栽培技術の基本	病虫害防除、雑草防除、障害対策、植物調整剤	
4	作型と栽培体系	品種利用野菜と周年生産 レタスの作型と栽培	
5	作型と栽培体系	特異な作型を持つ野菜 イチゴ	
6	果菜・葉菜類	レタスの作型と栽培	
7	作型と栽培体系	キャベツの作型と栽培	
8	果菜類の栽培技術	果菜類・イチゴ	
9	葉菜類の栽培技術	葉菜類・ハウレンソウ	
10	果菜類の栽培技術	果菜類・イチゴ	
11	葉茎菜類の栽培技術	葉茎菜類・ハウレンソウ・コカブ、他	
12	果菜類の栽培技術	果菜類・イチゴ	
13	果菜類の栽培技術	果菜類・イチゴ	
14	果菜類の栽培技術	果菜類・イチゴ	
15	葉茎菜類の栽培技術	葉茎菜類 後期まとめ	
他教科との関連 野菜生産技術 I		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2024年度 シラバス（授業細目表）

科目名	分類・形態学			履修区分	必修	選択
受講対象	1年生	授業形態	講義	実習	演習	見学
開講時期	1年次前期	時間数	15		単位数	0.5
授業概要	花きの栽培や販売の現場で使われる分類や形態などの専門用語について学習する。	到達目標	植物の分類、形態、名前についての基本的な知識を理解する。			
担当教員	長岡 求					
実務経験と授業との関わり	大手花き卸売会社に勤務するかたわら、園芸関連のテレビへの出演、講演、書籍の出版など、園芸に関する知識に非常に精通している。よって、わかりやすく、かつ専門的な視点から指導することができる。					
テキスト・教材	最新園芸・植物用語集（淡交社）					
成績評価方法	授業中に中間試験と定期試験を行い、その得点で評価する。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ試験の得点が60点以上で単位認定となる。			

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	植物の分類と名前①	さまざまな植物分類	
2	植物の分類と名前② 中間試験	植物分類と学名 筆記試験	
3	植物形態学①	根の形態学・茎の形態学	
4	植物形態学② 定期試験	葉の形態学・花の形態学・果実の形態学 筆記試験	
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連 花と緑の商品知識 I 園芸実習 I		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2024年度 シラバス（授業細目表）

科目名	土壌肥科学		履修区分	必修	選択
受講対象	1年生	授業形態	講義	実習	演習 見学
開講時期	1年次前期	時間数	15	単位数	0.5
授業概要	作物生産のための土づくりの観点から、土壌および肥料について学習する。	到達目標	植物の種類により、適した土壌、用土が違ふことを理解するとともに、植物を生産する上での土づくりの重要性について理解する。		
担当教員	高山 晃				
実務経験と授業との関わり	花き生産に従事するかたわら、土壌医として土作りの普及にも努める。よって、土壌肥料そのものに精通しているだけでなく、植物を生産する上での実用的な知識を指導することができる。				
テキスト・教材	新版土づくりと作物生産（日本土壌協会）、アースチェック液				
成績評価方法	定期試験期間中に授業の指導内容について理解しているかを問う筆記試験を行う。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ試験の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	作物生産と土壌環境	作物生産と土壌の役割、土壌の種類と土性、作物生産にとって好ましい土壌環境と課題	
2	作物生産と土壌の化学性①	必須元素と有用元素、土壌中の養分吸収に影響を与える項目	
3	作物生産と土壌の化学性②	土壌の化学的特性把握に係る項目	
4	作物生産と土壌の物理性	作物生産と土壌物理性の関係、土壌物理性改善対策	
5	作物生産と土壌の生物性	作物生産と土壌生物の関係、土壌病害に対する対策	
6	土壌改良と施肥管理	土壌改良とは、肥料の種類と施肥方法	
7	主要作物の施肥管理	水稻、ホウレンソウ、玉ねぎなどの施肥管理	
8	定期試験	筆記試験	定期試験期間中に行う
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連 花と緑の商品知識 I 園芸実習 I		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2024年度 シラバス（授業細目表）

科目名	土壌肥料各論		履修区分	必修	選択
受講対象	花き生産コース・野菜生産コース 1年生	授業形態	講義	実習	演習 見学
開講時期	1年次後期	時間数	15	単位数	0.5
授業概要	土壌医検定研修会のテキストに沿って、土壌に関するより専門的な知識を学習する。	到達目標	土壌に関する専門的な知識の習得及び土壌医検定3級の合格（受験は任意）。		
担当教員	高山 晃				
実務経験と授業との関わり	鉢物生産にあたり、オリジナル培養土を作成し実践している。また、土壌医として土作りの普及にも努める。よって、土壌肥料そのものに精通しているだけでなく、植物を生産する上での実用的な知識を指導することができる。				
テキスト・教材	土づくりと作物生産（日本土壌協会）、土壌医検定研修会テキスト（日本土壌協会）				
成績評価方法	試験期間中に授業の指導内容について理解しているかを問う筆記試験を行う。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ試験の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	土壌医検定研修会テキスト	第1章 作物生育に合った環境整備を通じた栽培期間、栽培地域の拡大 第2章 作物の健全な生育と土壌環境 第3章 作物生育と土壌の化学性診断	
2	土壌医検定研修会テキスト	第4章 作物生育と土壌の物理性 第5章 作物生育と土壌の生物性	
3	土壌医検定研修会テキスト	第6章 土壌改良と施肥・灌水管理 第7章 コスト低減、環境負荷低減等を目指した土壌・施肥管理	
4	土壌医検定研修会テキスト	第8章 主要作物の施肥特性と施肥管理 第9章 土壌・作物診断の内容と進め方	
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連 土壌肥科学		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2024年度 シラバス（授業細目表）

科目名	病理害虫学		履修区分	必修	選択
受講対象	1年生	授業形態	講義	実習	演習 見学
開講時期	1年次前期	時間数	15	単位数	0.5
授業概要	農薬の種類、安全性や使用方法、病害虫の種類や生態、発生原因、症状、対処法、防除法を学習する。	到達目標	農薬の種類や安全性、使用方法について正しく理解するとともに、病害虫の種類、主要病害虫の生態などを理解する。		
担当教員	草間 祐輔				
実務経験と授業との関わり	千葉大学園芸学部卒業。同大学非常勤講師。住友化学園芸㈱に在職。著書は「NHK趣味の園芸 12か月栽培ナビDo 病気と害虫を防ぐ」（NHK出版）など多数。植物の病害虫防除、農薬の安全性や適正使用について研鑽を積み、大学、専門学校、農業大学校、講習会などで広く実践的な講義、指導を行っている。				
テキスト・教材	植物の病気と害虫 防ぎ方・なおし方（主婦の友社）				
成績評価方法	定期試験期間中に授業の指導内容について理解しているかを問う筆記試験を行う。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ試験の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	植物に被害をもたらす病気や害虫	授業の導入として身近で主要な病害虫について認識を深める	
2	病気や害虫の発生原因	病害虫の発生原因に目を向け、防除の基本について認識を深める	
3	発生を抑える工夫	発生原因を取り除く着眼点で行う防除作業について認識を深める	
4	生理障害と肥料	植物の栄養状態が病害虫防除にも影響することについて認識を深め、あわせて肥料の役割について学ぶ	
5	農薬を使う前の防除(1)	発生原因を念頭に置いた非農薬で実施できる対処法について認識を深める	
6	農薬を使う前の防除(2)	発生原因を念頭に置いた非農薬で実施できる対処法について認識を深める	
7	農薬を使う防除	農薬の種類、目的に応じた選択方法、安全性について認識を深める	
8	定期試験	筆記試験	定期試験期間中に行う
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連 花と緑の商品知識 I 土壌肥料学 園芸実習 I		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2024年度 シラバス（授業細目表）

科目名	病理害虫各論		履修区分	必修	選択
受講対象	花き生産コース・野菜生産コース 1年生	授業形態	講義	実習	演習 見学
開講時期	1年次後期	時間数	15	単位数	0.5
授業概要	花きや野菜生産における病気や害虫について、その種類、対処法、防除法等を学習する。	到達目標	花き、野菜生産における実践的な病理害虫に対する、対処法、防除法等を理解する。		
担当教員	草間 祐輔				
実務経験と授業との関わり	千葉大学園芸学部卒業。同大学非常勤講師。住友化学園芸㈱に在職。著書は「NHK趣味の園芸 12か月栽培ナビDo 病気と害虫を防ぐ」（NHK出版）など多数。植物の病虫害防除、農薬の安全性や適正使用について研鑽を積み、大学、専門学校、農業大学校、講習会などで広く実践的な講義、指導を行っている。				
テキスト・教材	植物の病気と害虫 防ぎ方・なおし方（主婦の友社）				
成績評価方法	授業時間内での筆記試験にて評価する。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ試験の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	病理害虫各論 農薬の安全性と適正使用(1)	主要害虫の生態、効果的な防除、安全な使用方法について認識を深める	
2	病理害虫各論 農薬の安全性と適正使用(2)	主要害虫の生態、効果的な防除、安全な使用方法について認識を深める	
3	病理害虫各論 農薬の安全性と適正使用(3)	主要害虫の生態、効果的な防除、安全な使用方法について認識を深める	
4	病理害虫各論 農薬の安全性と適正使用(4)	主要害虫の生態、効果的な防除、安全な使用方法について認識を深める	
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連 病理害虫学、花き生産技術 I		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2024年度 シラバス（授業細目表）

科目名	植物生理学		履修区分	必修	選択
受講対象	1年生	授業形態	講義	実習	演習 見学
開講時期	1年次前期	時間数	15		単位数 0.5
授業概要	植物細胞、光合成や呼吸、生活環と環境応答、有用成分と植物ホルモン、栄養など植物生理学の基礎知識を園芸作物への応用を念頭におきながら理解に努める授業内容とする。	到達目標	植物生理学の基礎を理解し、農業、園芸に活かせるような基本的な知識や技術を身につける。		
担当教員	竹本 春菜				
実務経験と授業との関わり	企業での実務経験はないが、大学では緑化植栽研究室に所属し、造園植物の研究を行っていた。よって、植物の生理的機構については十分な知識を持つ。				
テキスト・教材	絵とき植物生理学入門（オーム社）				
成績評価方法	試験期間中に授業の指導内容について理解しているかを問う筆記試験を行う。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ試験の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	植物生理学とは 植物の構造 光合成と代謝1	植物の生理現象を知る 植物の構造、器官、細胞の働き 光合成のしくみ	
2	光合成と代謝2	代謝・呼吸のエネルギー利用のしくみ	
3	発生と形態形成	発生と成長	
4	環境1	植物の運動	
5	環境2	光、水、温度、重力等外部要因に対する反応	
6	生長と植物ホルモン	植物ホルモン	
7	栄養	無機物質、ストレス、無機元素の代謝	
8	定期試験	筆記試験	定期試験期間中に行う
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2024年度 シラバス（授業細目表）

科目名	園芸実習 I		履修区分	必修	選択
受講対象	1年生	授業形態	講義	実習	演習 見学
開講時期	1年次前・後期	時間数	120	単位数	4
授業概要	園芸生産における基礎技術について体験的・継続的な実習を通して学ぶ。また、花き栽培についての興味と関心を高めるとともに、科学的思考力と問題解決能力を身につける。		到達目標	播種から開花までの基本的な栽培方法及び管理方法を習得する。	
担当教員	萩原 文雄、竹本 春菜				
実務経験と授業との関わり	(萩原) 鉢花、花壇苗、洋ラン、切り花などの花き生産に20年以上従事し、幅広い植物の栽培知識を持つため、植物の栽培知識、技術を実務にもとづき指導することができる。(竹本) 企業での実務経験はないが、大学では緑化植栽研究室に所属し、造園植物の研究を行っていた。よって、植物の基礎的な栽培知識・技術を指導することができる。				
テキスト・教材	プリントテキスト				
成績評価方法	毎回の授業後に提出するレポートと出席状況、授業態度を総合的に評価する。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	ガイダンス	施設案内、圃場の管理について	
2	土づくり	基本培養土の作成	
3	土壌改良および花壇作成	施肥の方法、花壇デザイン	
4	花き栽培	切り花栽培、植え付け方法	
5	植栽	花壇作成	
6	野菜栽培、栄養繁殖	サツマイモの栽培方法	
7	花き栽培	花壇苗栽培、鉢上げ	
8	繁殖	宿根草の栄養繁殖	
9	花き、野菜栽培管理	花壇および苗物、圃場管理	
10	植栽	夏花壇の作成	
11	花き栽培管理	花苗メンテナンス（追肥、花がら摘み等）	
12	植栽・栽培管理	夏花壇管理（除草など）	
13	花き栽培	種子繁殖、切り花栽培	
14	植栽	夏花壇管理（除草、挿植など）	
15	栽培管理	苗物栽培、切花栽培	
16	植栽	秋花壇植栽	
17	花き、野菜栽培	サツマイモの収穫、切花栽培	
18	植栽	秋花壇管理	
19	植栽、繁殖	冬花壇植栽、種子繁殖（鉢物）	
20	花き栽培	球根栽培、プランター栽培	
21	花き栽培、繁殖	球根繁殖（鱗片）、苗物栽培	
22	花き栽培管理	切花栽培、病虫害予防、農薬の使用法	
23	花き栽培	春出荷鉢物の栽培、切花栽培	
24	繁殖	種子繁殖（好光性、嫌光性種子）	
25	繁殖	種子繁殖（宿根草）	
26	繁殖、花き栽培	栄養繁殖（挿し芽）、苗物栽培（鉢上げ）	
27	花き栽培管理	花壇メンテナンス、圃場管理	
28	まとめ	確認テストおよび振り返り	
29			
30			
他教科との関連	花と緑の商品知識 I 分類・形態学 土壌肥料学 病理害虫学 育種・繁殖	欠席者に対するペナルティ 減点となる他、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考 天候や植物の生育状況によって、指導内容の変更や指導順序の入れ替えがある。

2024年度 シラバス（授業細目表）

科目名	育種・繁殖		履修区分	必修	選択
受講対象	1年生	授業形態	講義	実習	演習 見学
開講時期	1年次前期	時間数	30	単位数	1
授業概要	育種の目的、基本的手法、メンデル遺伝等の育種の原理、種子及び栄養繁殖の基礎と応用、バイオテクノロジーの概要と利用状況、及び育成品種の権利保護について学習する。	到達目標	作物の育種と繁殖方法について、基本的な知識の理解を進め、さらには植物バイオテクノロジーの利活用に関する知見を広げる。		
担当教員	加藤 紀夫				
実務経験と授業との関わり	企業において、主任研究員として組織培養を利用した品種開発に取り組み、育種・繁殖に関する分野で多数の特許出願の経験がある。遺伝子組換えやゲノム編集に関する研究を牽引した経験があり、植物バイオテクノロジー関連情報にも詳しい。よって、現場に即した実践的な指導ができる。				
テキスト・教材	プリント				
成績評価方法	最終回の授業内で授業の指導内容について理解しているかを問う筆記試験を行う。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ試験の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画

回	指導項目	指導内容	備考
1	育種概論	育種の概要、育種法、事例紹介	
2	育種の基礎	遺伝子と染色体、メンデル遺伝、F1品種、選抜方法	
3	種子繁殖	花の構造、花粉、種子の性質、受粉方法、播種方法	
4	栄養繁殖	分裂組織の位置と再分化、様々な繁殖方法の紹介	
5	植物組織培養概論	培養環境、培地組成、無菌操作	
6	培養技術と育種・繁殖	ウイルスフリー化、大量増殖、花粉培養	
7	植物バイオテクノロジーの利用と品種保護	遺伝子組換えとゲノム編集の現状、種苗法と特許	
8	まとめ 定期試験	授業のまとめ 筆記試験	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連 園芸実習 I		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2024年度 シラバス（授業細目表）

科目名	グリーンコーディネート		履修区分	必修	選択
受講対象	1年生	授業形態	講義	実習	演習 見学
開講時期	1年次前期	時間数	30		単位数 1
授業概要	グリーンコーディネート（園芸装飾）について基礎を学び、作品製作を実施しながら学んでいく。	到達目標	グリーンコーディネートの基礎を知り、実習を通して一連の手法を理解する。		
担当教員	佐野 好男				
実務経験と授業との関わり	長年にわたりグリーンコーディネート（園芸装飾）業に従事し、多くの優秀作品を手掛けるなど、その功績から「現代の名工」を授与。後継者育成に取り組んでいる。よって実際の現場に即した内容を指導することができる。				
テキスト・教材	関連資料の配布				
成績評価方法	最終回にグリーンコーディネートについて出題するレポートで評価する。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつレポートの得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	基礎①	グリーンコーディネートとは	
2	基礎②	グリーンコーディネート実例	
3	基礎③	コンテナガーデンのデモンストレーション	
4	基礎作業①	グループ実習① コンテナガーデン基礎編	
5	基礎作業②	グループ実習② コンテナガーデンオリジナル編	
6	基礎作業③	個人実習① 木枠デザイン	
7	基礎作業④	個人実習② 木枠デザイン	
8	実践作業①	個人実習③ 木枠デザイン	
9	実践作業②	グループ実習① インドアガーデン（洋風）	
10	実践作業③	グループ実習② インドアガーデン（和風）	
11	実践作業④	グループ実習③ インドアガーデン（オリジナル）	
12	実践作業⑤	グループ実習④ インドアガーデン（オリジナル）	
13	実践作業⑥	グループ実習⑤ インドアガーデン（オリジナル）	
14	総括	レポート課題	
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2024年度 シラバス（授業細目表）

科目名	ビジネスマナー		履修区分	必修	選択
受講対象	花き生産コース・野菜生産コース・グリーンコーディネートコース・造園コース 1年生	授業形態	講義	実習	演習 見学
開講時期	1年次前・後期	時間数	45	単位数	1.5
授業概要	経済産業省が定義する「人生100年時代」に求められるスキルのOS部分あたる『社会人としてのマインド』と『社会人基礎力』を基軸にしたビジネスマナー。	到達目標	社会人基礎力の3つの能力/12の能力要素を内容として、自己認識しながら周囲との協働、目的に向かって自発的に行動できるようにする。		
担当教員	内村 敬子、古谷 民子				
実務経験と授業との関わり	(内村) ビジネスパーソンとしてのスキルと企業研修講師としてのノウハウ（社会人基礎力を盛り込んだ研修）を活かした実践的な授業ができる。				
テキスト・教材	オリジナルテキスト、プリント				
成績評価方法	定期試験期間中や授業内に行う筆記試験と出席状況で総合的に評価する。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	オリエンテーション 社会人基礎力の基本	1. アイスブレイク 2. 社会人基礎力とは/個人ワーク	チームで働く力/考え抜く力/一歩踏み出す力
2	スタイル別コミュニケーション1	自己理解・他者理解1: ①自己分析 ②演習1	チームで働く力
3	スタイル別コミュニケーション2	自己理解・他者理解2: ①演習2	チームで働く力
4	対面スキルアップ1	ビジネスマナースキル1 表情・挨拶・身だしなみ・立居振る舞い・敬語1	
5	対面スキルアップ2	ビジネスマナースキル2 敬語2・話し方・訪問	
6	対面スキルアップ3	ビジネスマナースキル3 伝え方	チームで働く力
7	対面スキルアップ4	1. ビジネスマナーコンテスト（会社訪問編） 2. コンテストの振り返り	チームで働く力
8	定期試験	前期定期試験	定期試験期間中に行う
9	就職対策	履歴書の書き方、送付方法	古谷
10	ビジネスコミュニケーション1		
11	ビジネスコミュニケーション2		
12	社会人基礎力総合	チームビルディング 課題解決	チームで働く力/ 考え抜く力
13	社会人基礎力総合	チームビルディング 課題解決	チームで働く力/考え抜く力/ 一歩踏み出す力
14	社会人基礎力総合（総まとめ）	課題解決続き 発表（チームプレゼンテーション）	チームで働く力/考え抜く力/ 一歩踏み出す力
15	定期試験 振り返り	1. 後期定期試験 2. 社会人基礎力振り返り（チーム内評価チェック）	授業内で行う
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2024年度 シラバス（授業細目表）

科目名	園芸流通		履修区分	必修	選択	
受講対象	1年生	授業形態	講義	実習	演習	見学
開講時期	1年次前期	時間数	30		単位数	1
授業概要	園芸業界の概要のほか、各分野の現状と展望を企業や団体等で実際に業務に従事している講師から学習する。	到達目標	園芸・農業・造園・フラワーといった花や緑に関わる業界の全体像を理解するとともに、業界各分野への就業意識を高める。			
担当教員	伊東 政信、他					
実務経験と授業との関わり	担当教員はそれぞれの分野での業務に従事していることから、現状に即した業界の内容、および展望等を指導することができる。					
テキスト・教材	プリント					
成績評価方法	毎回の授業後に提出するプリント、出席状況、授業態度、筆記試験等で総合的に評価する。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。			

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	イントロダクション	授業を進めるにあたって業界の全体像	
2	園芸文化	園芸文化の魅力と継承・発展	
3	農業	日本の農業の現状と展望	
4	野菜生産	野菜の生産・販路開拓とこれからの可能性	
5	見学	鴻巣花き市場の見学	
6	市場・流通	市場・仲卸～流通～の機能	
7	種苗	種苗業界の使命と展望	
8	野菜生産	新規就農への道・新しい取り組みへの心構え	
9	フラワー	フラワー業界の現状と展望	
10	ブライダル	ブライダル業界の現状と展望	
11	花き生産	生産者の現状・就農に向けて	
12	造園	日本庭園の魅力	
13	グリーンコーディネート	インドアグリーン・特殊空間緑化の可能性	
14	総括	業界を目指す皆さんへ	
15	定期試験	筆記試験	定期試験期間中に行う
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 欠席した授業分のプリント提出点が減点となる。また、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2024年度 シラバス（授業細目表）

科目名	デザイン		履修区分	必修	選択
受講対象	1年生	授業形態	講義	実習	演習
開講時期	1年次前期	時間数	30	単位数	1
授業概要	物の見方、見え方を習得し、描写できるよう演習する。	到達目標	自分が頭の中に思い描いているものを表現できるようになること。		
担当教員	室伏 英男				
実務経験と授業との関わり	フリーランスで有名百貨店や多くの企業のディスプレイデザインを手がけている。そのため理論を交えた実践的な指導ができる。				
テキスト・教材	ケント紙、練り消しゴム、鉛筆（2H・H・HB・B・2B・3B・4B）、直定規、三角定規、コンパス、三角スケール、製図用ペン、色鉛筆、カッター等				
成績評価方法	毎回の授業内で制作する課題によって評価する。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ課題の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	概要 デッサンの基本	物の見え方、鉛筆の削り方、下図作成	
2	デッサンの基本	黄金分割、鉛筆表現のイロハ	
3	石膏デッサン	各班に分かれ、鉛筆デッサン	
4	石膏デッサン	各班に分かれ、鉛筆デッサン	
5	植物（鉢植）の精密描写	各班に分かれ、精密描写	
6	植物（鉢植）の精密描写	各班に分かれ、精密描写	
7	校内スケッチ	人工的な物と自然物を取り入れたスケッチ	
8	校内スケッチ	人工的な物と自然物を取り入れたスケッチ	
9	校内スケッチ	人工的な物と自然物を取り入れたスケッチ	
10	複合静物の描写	レンガ、ブロック、テーブルクロス、透明ガラスの花瓶に花、レモン、缶、紙風船	
11	複合静物の描写	レンガ、ブロック、テーブルクロス、透明ガラスの花瓶に花、レモン、缶、紙風船	
12	複合静物の描写	レンガ、ブロック、テーブルクロス、透明ガラスの花瓶に花、レモン、缶、紙風船	
13	複合静物の描写	レンガ、ブロック、テーブルクロス、透明ガラスの花瓶に花、レモン、缶、紙風船	
14	複合静物の描写	レンガ、ブロック、テーブルクロス、透明ガラスの花瓶に花、レモン、缶、紙風船	
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 欠席時の課題は必ず提出する。また、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考 進度により、指導内容が変更になる場合がある。

2024年度 シラバス（授業細目表）

科目名	フラワーデザイン基礎		履修区分	必修	選択
受講対象	花き生産コース・野菜生産コース・グリーンコーディネートコース・造園コース 1年生	授業形態	講義	実習	演習 見学
開講時期	1年次前期	時間数	30	単位数	1
授業概要	フラワーデザインの基本を通して学ぶ。アレンジメント、花束のテクニック、ワイヤーリング手法の習得。	到達目標	基本的なテクニックを習得し、アレンジメントや花束を作れるようになる。		
担当教員	川村 志乃				
実務経験と授業との関わり	フラワースクールでの講師やブライダル装飾業務に携わってきた他、フラワー装飾の職業訓練指導員免許も取得しているため、的確なフラワーデザインの知識、技術を指導することができる。				
テキスト・教材	プリント、花材、フローラルテープ、ワイヤー、ハサミ、花器、フローラルフォーム、ラッピング用品など				
成績評価方法	毎回の授業を記録したレポートによって評価する。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	1本ラッピング	テーピング、リボン、ラッピング、切花の扱い方	
2	母の日ミニブーケ	スパイラル、ラッピング、リボン、花束の組み方	
3	スワッグ	スパイラル、ドライフラワーについて	
4	アレンジメント ドーム型	アレンジメントの基本、オアシスの扱い方	
5	リース	ワイヤーリング、テーピング	
6	コサージュ	コサージュの基本、ワイヤーリング、テーピング、リボン	
7	BOXフラワーor ボトルフラワー	ギフト商品、インテリアの花	
8	お月見アレンジ	花の特徴を活かしたデザイン	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連 カラーコーディネート 園芸文化論		欠席者に対するペナルティ 欠席した授業分のレポート提出点が減点となる。また、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考 花材の出回り状況によって、指導内容や指導順序が変更になることがある。

2024年度 シラバス（授業細目表）

科目名	カラーコーディネート		履修区分	必修	選択
受講対象	花き生産コース・野菜生産コース・グリーンコーディネートコース・造園コース 1年生	授業形態	講義	実習	演習 見学
開講時期	1年次前期	時間数	15	単位数	0.5
授業概要	色の性質について理解し、色彩がもたらす効果や作用について学習する。	到達目標	光の性質と物体の色の知覚、視覚効果や心理的影響、混色の原理に関する理解を深める。配色に適した色彩体系を用いて色を数値や記号で表す方法を習得する。		
担当教員	江副 好美				
実務経験と授業との関わり	カラーコンサルティングやディレクション業務の経験を活かした実践的な指導を行い、大学および各種専門学校での講義や企業研修、団体主催のセミナーで講師を務めている。共著に『配色の教科書 - 歴史上の学者・アーティストに学ぶ「美しい配色」のしくみ』や『色で巡る日本と世界』がある。				
テキスト・教材	『カラー&ライフ』、新配色カード199a、新配色カード199用演習台紙、カードフォルダ、配布プリント				
成績評価方法	出席状況、授業内で提出する課題で総合的に評価する。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	なぜ色が見えるのか	光源、物体、視覚、色温度、色覚の多様性	
2	表色系	色の三属性、色相環、トーン、色立体	
3	混色、配色	混色の原理、配色の基本的な技法	
4	色が及ぼす効果とはたらき	色の心理的効果、色の知覚的効果	
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連 フラワーデザイン基礎 (資格取得) 色彩検定3級 (資格取得) 色彩検定2級		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2024年度 シラバス（授業細目表）

科目名	造園基礎		履修区分	必修	選択
受講対象	花き生産コース・野菜生産コース・グリーンコーディネートコース・フラワーコーディネートコース 1年生	授業形態	講義	実習	演習 見学
開講時期	1年次前期	時間数	30	単位数	1
授業概要	造園作業で使用する道具の名称や使用方法、竹や石の扱い、剪定方法や樹木について実習を交えながら学習する。	到達目標	実際に造園の道具や資材にふれてもらい、基本的な道具の名前や扱い方、樹木を覚える。		
担当教員	金子 峻昌、布施 浩一				
実務経験と授業との関わり	(金子) 造園や園芸装飾を手掛ける会社の代表を務めており、園芸装飾のコンテストでは総理大臣賞の受賞経験もあることから、実践的な知識、技術を指導できる。(布施) 長年造園会社での勤務経験があることから、現場に即した指導ができる。				
テキスト・教材	プリント、竹、ナタ、ノコギリ、切出しナイフ、油粘土、ロープ、シュロ縄、鋏				
成績評価方法	出席状況、各実習の完成度や取り組み姿勢を総合的に評価する。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	造園の道具について	道具の種類とその扱い方	
2	造園資材 竹	竹材の特性、扱い方、加工の仕方	
3	安全教育	作業を行う上での注意点	布施
4	石について	石の扱い方、延段、飛石など	
5	剪定	剪定の種類、道具	
6	植栽、移植	樹木の植え方、掘り方、樹木の表裏、気勢等々	
7	ロープワーク	いぼ結び、うのくび、本結びなどの基本的な結び方	
8	樹木について	樹形、葉の形、科名、香りなどを学ぶ	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 欠席した授業分の実習点が減点となる。また、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考 天候等により、指導順序、内容が変更になることがある。

2024年度 シラバス（授業細目表）

科目名	野菜生産技術 I		履修区分	必修	選択
受講対象	野菜生産コース 1年生	授業形態	講義	実習	演習 見学
開講時期	1年次前・後期	時間数	135	単位数	4.5
授業概要	野菜園芸の定義、成長と発育、環境反応と代謝、施設環境と施設栽培等について学習するとともに、関係する栽培技術を習得する。	到達目標	野菜生産にかかわる基本的な知識や技術を身につける。		
担当教員	湯本 達夫、齋藤 仁				
実務経験と授業との関わり	(湯本) 県農業大学校教員及び農業改良普及員としての実務経験があり、多種の野菜について多様な栽培技術を習得しており、実際の生産現場の状況に即した内容を指導できる。(齋藤) 県農業大学校及び農業改良普及員としての実務経験があり、多種の野菜について多様な栽培技術を習得しており、現場をふまえた実践的な授業ができる。				
テキスト・教材	野菜園芸学の基礎（農山漁村文化協会）、新野菜づくりの実際 第2版 果菜Ⅱ（農山漁村文化協会）、新野菜づくりの実際 第2版 葉菜Ⅱ				
成績評価方法	前期と後期の最終回に全授業の指導内容について理解しているかを問う筆記試験を行う。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ試験の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	野菜園芸について1	野菜の基礎、野菜園芸について	
2	野菜園芸について2	野菜の原産地と来歴	
3	野菜園芸について3	野菜の生産・消費・流通	
4	野菜の成長と発育 1	種子の構造、種類	
5	野菜の成長と発育2	発芽条件	
6	野菜の成長と発育3	葉の成長、形態、結球	
7	野菜の成長と発育4	茎の構造、成長	
8	野菜の成長と発育5	分枝と頂芽優勢	
9	野菜の成長と発育6	根の構造、成長、養水分の吸収	
10	野菜の成長と発育7	塊茎、塊根類について	
11	野菜の成長と発育8	種子の休眠	
12	野菜の成長と発育9	植物体の休眠	
13	野菜の成長と発育	復習、まとめ	
14	野菜の成長と発育10	花成について	
15	野菜の成長と発育11	花成と条件について	
16	野菜の成長と発育12	抽苔、開花、受精について	
17	野菜の成長と発育13	抽苔、開花、受精について（続き）	
18	野菜の成長と発育14	受精、真果と偽果	
19	野菜の成長と発育15	果実の発育、肥大と養分	
20	環境反応と代謝1	野菜の生育環境要因	
21	環境反応と代謝2	野菜の生育環境要因（続き）	
22	環境反応と代謝3	光合成と呼吸、転流、代謝	
23	環境反応と代謝4	無機養分の働きと吸収・移行	
24	環境反応と代謝5	窒素同化	
25	野菜の鮮度保持1	収穫後の野菜の特徴	
26	野菜の鮮度保持2	呼吸と鮮度保持	
27	野菜の鮮度保持3	鮮度保持と予冷	
28	野菜の栽培、環境	復習・まとめ	
29			
30			
他教科との関連	野菜生産各論 I	欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2024年度 シラバス（授業細目表）

科目名	次世代農業 I		履修区分	必修	選択
受講対象	野菜生産コース 1年生	授業形態	講義	実習	演習 見学
開講時期	1年次後期	時間数	30		単位数 1
授業概要	野菜生産における生産性向上、省力化を目的としたスマート農業等生産管理技術の取り組み状況を学習する。	到達目標	次世代の野菜生産について、取り組み状況等を理解する。		
担当教員	齋藤 仁				
実務経験と授業との関わり	県農業大学校及び農業改良普及員としての実務経験があり、多種の野菜について多様な栽培技術を習得しており、現場をふまえた実践的な授業ができる。				
テキスト・教材	野菜園芸学の基礎（農山漁村文化協会）				
成績評価方法	後期の最終回に指導内容について理解度の試験を行う。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ試験の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	次世代農業 I	次世代農業 施設園芸の取り組み状況、事例	
2	次世代農業 I	次世代農業 施設園芸の取り組み状況、事例	
3	次世代農業 I	施設園芸における課題、事例	
4	次世代農業 I	施設園芸における課題、事例	
5	次世代農業 I	施設園芸技術開発の現状・今後の方向	
6	次世代農業 I	環境制御システムと植物生理	
7	次世代農業 I	環境制御システムと植物生理	
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2024年度 シラバス（授業細目表）

科目名	販売技術 I		履修区分	必修	選択
受講対象	野菜生産コース 1年生	授業形態	講義	実習	演習 見学
開講時期	1年次後期	時間数	15	単位数	0.5
授業概要	野菜の販売基礎知識及び実技を習得する。	到達目標	出荷調製技術及び販売技術が習得できる。		
担当教員	齋藤 仁				
実務経験と授業との関わり	県農業大学校及び農業改良普及員としての実務経験があり、多種の野菜について多様な栽培技術を習得しており、現場をふまえた実践的な授業ができる。				
テキスト・教材	野菜園芸学の基礎（農山漁村文化協会）、プリント				
成績評価方法	最終回に販売基礎知識や実技について理解度の試験を行う。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ試験の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	野菜販売技術	野菜の出荷規格、トレーサビリティ、出荷調製技術	
2	野菜販売技術	出荷調製、販売促進、POP作成	
3	野菜販売技術	出荷調製、販売促進、POP作成	
4	野菜販売技術	まとめ、復習	
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2024年度 シラバス（授業細目表）

科目名	野菜育種・繁殖Ⅰ		履修区分	必修	選択
受講対象	野菜生産コース 1年生	授業形態	講義	実習	演習 見学
開講時期	1年次後期	時間数	15	単位数	0.5
授業概要	野菜の品種について基礎的な知識、技術を学ぶ。	到達目標	野菜の育種（品種改良）に関する基礎的な知識を習得する。		
担当教員	湯本 達夫				
実務経験と授業との関わり	県農業大学校教員や農業改良普及員として野菜生産に関わる長い実務経験があり、野菜の栽培生産に関わるF ₁ 品種の動向等、生産現場に精通しているため、実際の生産現場の状況に即した内容を指導できる。				
テキスト・教材	野菜園芸学の基礎（農山漁村文化協会）、野菜の上手な育て方大事典（成美堂出版）				
成績評価方法	各回ごとに小テストを行い授業の理解度を評価する。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	野菜育種・繁殖-1	野菜の品種と育種について	
2	野菜育種・繁殖-2	野生種と栽培種について	
3	野菜育種・繁殖-3	品種改良の歩み	
4	野菜育種・繁殖-4	種子の役割、まとめ、復習	
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2024年度 シラバス（授業細目表）

科目名	食品加工論 I		履修区分	必修	選択
受講対象	野菜生産コース 1年生	授業形態	講義	実習	演習 見学
開講時期	1年次後期	時間数	15	単位数	0.5
授業概要	校内で生産した野菜を使用し食品加工の基礎を学ぶ。食品衛生・安全性の基礎について学習する。	到達目標	食品の衛生管理、安全性の基礎を理解し、野菜の加工技術の知識を習得する。		
担当教員	福島 玲子				
実務経験と授業との関わり	野菜ソムリエプロの資格を持ち、料理教室や自治体の野菜教室を開催する他、小学校での食育授業を担当しているため、実務に即した実践的な授業ができる。				
テキスト・教材	料理レシピプリント、食品衛生関係資料				
成績評価方法	野菜の加工、食品衛生についての筆記試験を実施する。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ試験の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	食品加工論 I	食品の安全・衛生について	
2	食品加工論 I	食品の安全・衛生について	
3	食品加工論 I	調理器具の種類・扱い方	
4	食品加工論 I	野菜の加工について	
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連 加工実習 I		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2024年度 シラバス（授業細目表）

科目名	加工実習 I		履修区分	必修	選択
受講対象	野菜生産コース 1年生	授業形態	講義	実習	演習 見学
開講時期	1年次後期	時間数	15		単位数 0.5
授業概要	校内で生産した野菜を使用し食品加工の基礎を学ぶ。	到達目標	野菜の加工技術を習得する。		
担当教員	福島 玲子				
実務経験と授業との関わり	野菜ソムリエプロの資格を持ち、料理教室や自治体の野菜教室を開催する他、小学校での食育授業を担当しているため、実務に即した実践的な授業ができる。				
テキスト・教材	料理レシピプリント、食品衛生関係資料				
成績評価方法	実習を通し野菜の加工、食品衛生についての理解度を評価する。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	加工実習 I	校内農場で生産した旬の野菜を使用した調理実習	
2	加工実習 I	校内農場で生産した旬の野菜を使用した調理実習	
3	加工実習 I	校内農場で生産した旬の野菜を使用した調理実習	
4	加工実習 I	校内農場で生産した旬の野菜を使用した調理実習	
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連 食品加工論 I		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2024年度 シラバス（授業細目表）

科目名	農業機械 I		履修区分	必修	選択
受講対象	野菜生産コース 1年生	授業形態	講義	実習	演習 見学
開講時期	1年次後期	時間数	15	単位数	0.5
授業概要	野菜生産に不可欠である農業機械の基礎知識及び操作技術を習得する。	到達目標	トラクター、動力噴霧器の基礎及び操作が習得できる。		
担当教員	湯本 達夫				
実務経験と授業との関わり	県農業大学校教員及び農業改良普及員としての実務経験があり、多種の野菜について多様な栽培技術を習得しており、実際の生産現場の状況に即した内容を指導できる。				
テキスト・教材	トラクターの機能と基本操作（日本農業機械化協会）				
成績評価方法	最終回に農業機械のしくみや実技についての理解度の試験を行う。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ試験の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	トラクターの機能	トラクターの機能	
2	トラクターの基本操作	トラクターの運転、操作	
3	トラクター耕耘作業	トラクター耕耘作業	
4	動力噴霧器の機能と基本操作	動力噴霧器の基本操作	
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2024年度 シラバス（授業細目表）

科目名	マーケティング I		履修区分	必修	選択	
受講対象	花き生産コース・野菜生産コース グリーンコーディネートコース 1年生	授業形態	講義	実習	演習	見学
開講時期	1年次前期	時間数	30	単位数	1	
授業概要	マーケティングとは何かを理解するとともに、消費者の意識や価値観を把握し、マーケティングの基本戦略（4P：製品、価格、流通、プロモーション）にどのように生かすのかを学習する。	到達目標	経営におけるマーケティングの役割を理解する。			
担当教員	河野 律子					
実務経験と授業との関わり	中小企業診断士の資格を持ち、中小企業の支援に取り組む他、農業・地域活性化の取り組み支援にも関わる。また、行政の立場からも農業の6次産業化を支援するなど、実務に長けていることから、実際の現場に即した実践的な指導ができる。					
テキスト・教材	プリント等					
成績評価方法	授業内での課題や授業態度等で評価する。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。			

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	マーケティングとは？消費者の意識や価値観をなぜ知るのが	次の消費の主役、Z世代（私たち）について考えてみよう	
2	「製品」について考えてみよう	顧客が製品に求める価値とはなにか考えてみよう	
3	「価格」について考えてみよう	値段の付け方のいろいろを考えてみよう	
4	「流通」について考えてみよう	「いつ」「だれに」「どのように」販売するのかを考えてみよう	
5	「プロモーション」について考えてみよう	Webで何ができるか考えてみよう	
6	視察研修（予定）		中止や時期の変更あり
7	商品販売計画書を作ってみよう	1シートに商品販売計画をまとめてみよう	
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2024年度 シラバス（授業細目表）

科目名	農業簿記Ⅰ		履修区分	必修	選択
受講対象	花き生産コース・野菜生産コース 1年生	授業形態	講義	実習	演習
開講時期	1年次前・後期	時間数	30	単位数	1
授業概要	農業簿記検定の3級レベルの基本的な知識を学習し、受験、合格を目指す。	到達目標	農業簿記検定3級に合格できるぐらいの知識を身につける。		
担当教員	伊東 政信				
実務経験と授業との関わり					
テキスト・教材	農業簿記検定3級教科書（大原出版）、電卓				
成績評価方法	「出席状況」「授業中のミニテスト（筆記試験）」「各期毎との本試験（筆記試験）」によって総合的に評価する。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	ガイダンス 簿記の概要	簿記の基礎	
2	農業簿記検定3級受験対策	テキストの説明と問題集の解答説明、ミニテスト	
3	農業簿記検定3級受験対策	テキストの説明と問題集の解答説明、ミニテスト	
4	農業簿記検定3級受験対策	テキストの説明と問題集の解答説明、ミニテスト これまでの復習と前期試験	
5	農業簿記検定3級受験対策	テキストの説明と問題集の解答説明、ミニテスト	
6	農業簿記検定3級受験対策	テキストの説明と問題集の解答説明、ミニテスト	
7	農業簿記検定3級受験対策	テキストの説明と問題集の解答説明、ミニテスト	
8	農業簿記検定3級受験対策 まとめ	テキストの説明と問題集の解答説明、ミニテスト 総復習と後期試験	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2024年度 シラバス（授業細目表）

科目名	インターンシップ			履修区分	必修	選択
受講対象	1年生	授業形態	講義	実習	演習	見学
開講時期	1年次後期	時間数	60		単位数	2
授業概要	外部企業において実際に現場を経験し、自身の現在の実力を理解するとともに企業担当者からも評価してもらうことで、今後の学習目標を定める。また、就職活動においても役立つ。	到達目標	自分の希望している企業（職種）での業務において、必要な知識と技術を理解するとともに、今後の学習目標を定める。			
担当教員	外部企業					
実務経験と授業との関わり						
テキスト・教材						
成績評価方法	考課表および実習報告書にもとづいて総合的に評価する。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。			

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	企業研修	6～12日間程度外部企業で研修を行う	
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2024年度 シラバス（授業細目表）

科目名	管理実習			履修区分	必修	選択
受講対象	野菜生産コース 1年生	授業形態	講義	実習	演習	見学
開講時期	1年次前・後期	時間数	60		単位数	2
授業概要	農場の管理を通して植物の適正な管理方法について学ぶ。	到達目標	様々な植物に対する管理方法を身に付ける。			
担当教員	齋藤 仁、湯本 達夫					
実務経験と授業との関わり	(齋藤) 県農業大学校及び農業改良普及員としての実務経験があり、多種の野菜について多様な栽培技術を習得しており、現場をふまえた実践的な授業ができる。(湯本) 県農業大学校教員及び農業改良普及員としての実務経験があり、多種の野菜について多様な栽培技術を習得しており、実際の生産現場の状況に即した内容を指導できる。					
テキスト・教材						
成績評価方法	出席状況、実習態度を総合的に評価する。		認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	農場等の管理実習	長期休業期間中に校内で管理実習を行う	
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 欠席時数分は他の日程で代講する。出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2024年度 シラバス（授業細目表）

科目名	校内行事			履修区分	必修	選択
受講対象	野菜生産コース 1年生	授業形態	講義	実習	演習	見学
開講時期	1年次前・後期	時間数	120		単位数	4
授業概要	様々な校外行事に参加し、主体性、協調性、作業の計画性など、就職してからも活かせるような知識や技術を身につける。	到達目標	様々な校内行事を通して、主体性、協調性、計画性などを身につける。			
担当教員	齋藤 仁、湯本 達夫					
実務経験と授業との関わり						
テキスト・教材						
成績評価方法	出席状況や各行事への取り組み姿勢、レポート等を総合的に評価する。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。			

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	入学式	入学式	
2	新年度オリエンテーション	ガイダンス、健康診断等	
3	新年度オリエンテーション	技能検定申し込み等	
4	母の日販売会準備	母の日販売会に向けた準備	
5	母の日販売会	母の日販売会	2日間のうちどちらか1日出席
6	就職ガイダンス	就職ガイダンス	
7	文化祭準備	文化祭に向けた準備	
8	文化祭準備	文化祭に向けた準備	
9	文化祭準備	文化祭に向けた準備	
10	文化祭準備	文化祭に向けた準備	
11	文化祭	展示／販売／体験教室等	
12	文化祭	展示／販売／体験教室等	
13	文化祭 片付け	文化祭の片付け	
14	卒業・進級作品展	展示等	
15	卒業・進級作品展 片付け	卒業・進級作品展の片付け	
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考